



## 地域銀行の中小企業向け貸出と収益性

### ～地域銀行の個別データによる分析～

井上 有弘

#### ポイント

- 金融庁が公表した「平成28事務年度金融行政方針」では、「横並びで単純な量的拡大競争に集中するような銀行のビジネスモデルが限界に近づいている」と指摘している。
- 地域銀行の個別データを分析すると、中小企業向け貸出比率が高いほど、概して貸出金利回りが高くなる正の相関関係が認められる。
- 地域銀行の個別データを用いて、貸出先を「地方公共団体・非中小企業」、「中小企業」、「個人(住宅ローン以外)」、「住宅ローン」の4つに区分して、貸出先別の利回りを推計した。
- 利回り水準の違いを考慮すると、中小企業向け貸出からは残高構成比以上に多くの粗利益を得ていることが分かる。
- 貸出先別の利回りを考慮することで、単純な量的拡大だけでは収益に結びつきにくい状況が、地域銀行のデータによっても確認できたといえる。

#### はじめに

金融庁が2016年10月に公表した「平成28事務年度金融行政方針」では、人口の減少や高齢化の進展等の経営環境の変化を前提に、「横並びで単純な量的拡大競争に集中するような銀行のビジネスモデルが限界に近づいているなど、従来型のビジネスモデルでは競争力を失う可能性がある」と指摘している。

その上で、「企業価値向上につながるアドバイスやファイナンスを提供することで収益を確保している地域金融機関については、金利低下が進む中においても貸出金利回りの低下幅が穏やかな傾向がみられるとしている。

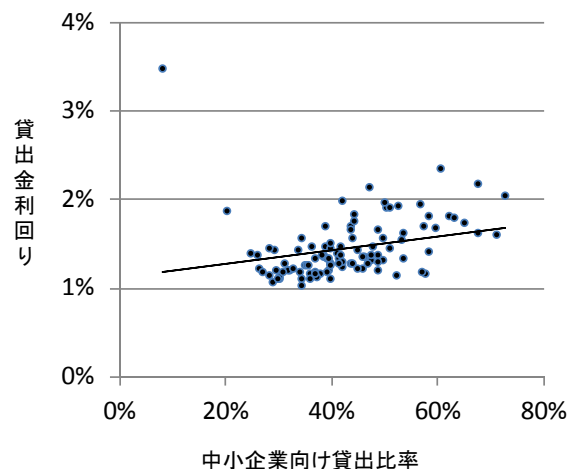
さらに、「顧客との『共通価値の創造』の構築は、持続可能なビジネスモデルの一つの有力な選択肢」と考えられるとし、こうした問題意識の下、金融機関に対して「取引先企業の事業の内容や成長可能性等を適切に評価(「事業性評価」)するよう促してきた」としている。

### 1. 中小企業向け貸出と収益性

本稿では、こうした事業性評価にもとづく「共通価値の創造」と収益性との関係を見るために、地域銀行(地方銀行、第二地方銀行)の個別データを分析する。

各地域銀行の全貸出に占める中小企業向け貸出比率と、貸出金からの収益率である貸出金利回りの関係は次のようになる(図表1)。一部の地域銀行のほかは、中小企業向け貸出比率が高いほど、概して貸出金利回りが高くなる正の相関関係が認められる。

(図表1) 中小企業向け貸出比率と貸出金利回り(地域銀行105行)

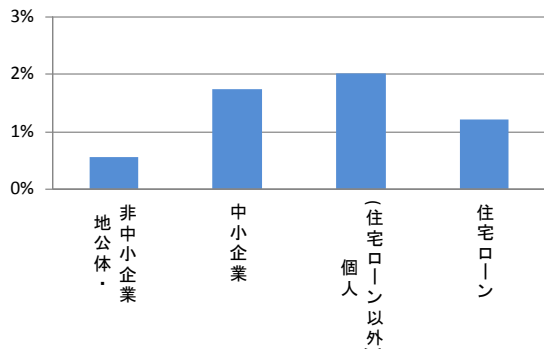


(備考)「全国銀行財務諸表分析」等より  
信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

## 2. 貸出先別の推計利回り

地域銀行の個別データを用いて、貸出先による収益率の違いを分析する。地域銀行の貸出先を「地方公共団体・非中小企業」、「中小企業」、「個人(住宅ローン以外)」、「住宅ローン」の4つに区分して、統計的手法により貸出先別の利回りを推計した(図表2)<sup>1</sup>。

(図表2) 貸出先別の推計利回り(2015年度)



(備考)図表1に同じ。

推計された利回りが最も高いのが、個人(住宅ローン以外)で2%程度、次いで中小企業向けが2%をやや下回る水準にある。一方で、住宅ローンは1%程度、地方公共団体・非中小企業は0.5%程度となっている。こうした利回りは、推計により求めたものであるため、ある程度の幅をもってみる必要があるが、貸出先別の利回り水準の違いを示しているといえる。

## 3. 貸出先別利息収入のイメージ

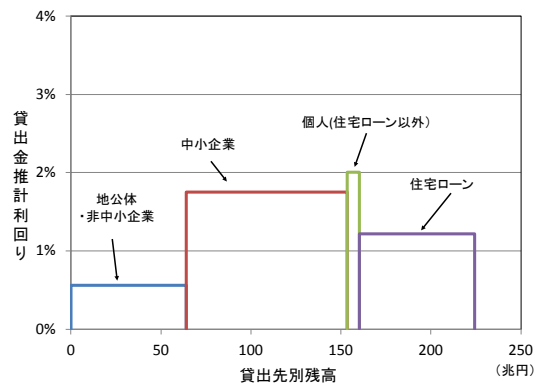
貸出先別の推計利回りと残高から、貸出金利息を図示することができる。残高を横軸に、利回りを縦軸にとると、線で囲まれた部分の面積が貸出先別の利息収入を表している(図表3)。

さらに、一定の資金調達原価率を想定することで、貸出先別の粗利益を試算できる。仮に資金調達原価率を0.5%とすると、貸出金からの粗利益の6割以上を中小企業向けから得ることになる<sup>2</sup>(図表4)。利回り水準の違いを考慮すると、中小企業向け貸出からは残高構成比以上に多くの粗利益を得ている。

1 貸出先別利回りの推計方法、信用金庫についての推計結果は、金融調査情報 No. 27-22「信用金庫の貸出先別収益性」を参照。なお、本稿では、4区分毎の貸出比率が最高および最低の地域銀行を除いて推計した結果を用いている(図表2~4)。

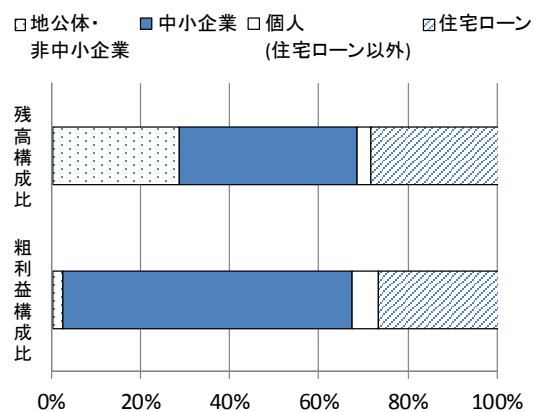
2 「全国銀行財務諸表分析」による実際の資金調達原価率(15年度で地方銀行0.93%、第二地方銀行1.14%)で試算すると、貸出額あたりのコストの違い等を考慮しなければ、地方公共団体・非中小企業向け貸出は採算がとれていないことになる。

(図表3) 貸出先別利息収入のイメージ



(備考)図表1に同じ。

(図表4) 貸出先別の残高・粗利益構成比



(備考)図表1に同じ。

## おわりに

もちろん地域金融機関のビジネスモデルは1つではなく、地域性の違いによる制約もある。実際に最も貸出金利回りが高い地域銀行は、個人向け貸出比率が9割近い特徴的な貸出構成となっている。

しかし、地域銀行の個別データによる分析からは、中小企業向け貸出比率の高さは、相対的な利回りの高さから収益に寄与する傾向がみられた。今後も、比較的標準化された商品である住宅ローンやカードローンは金利競争にさらされる可能性が高く、地方公共団体や大企業向けでは地域銀行の資金調達原価率を下回る貸出金利となることもあるだろう。

貸出先別の利回りを考慮することで、単純な量的拡大だけでは収益に結びつきにくい状況が、地域銀行のデータによっても確認できたといえる。

以上